

[授業科目名] 看護理論 (4N10011151) Nursing Theory			
[担当教員] 永田文子			
[実 施 期] 前期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

看護実践の基盤として看護理論を活用する意義を理解し、理論を実践に活用するために必要な知識・思考過程を学ぶ

□ ■ 授業の内容

- 1・2 看護理論を理解し活用するために必要な基本的知識
3. 看護理論の歴史と倫理
4. フローレンス・ナイチンゲール
5. ヒルデガードE. ペプロウ
6. ヴァージニア・ヘンダーソン
7. マドレンM. レイニンガー
8. ジョイス・トラベルビー
9. マーサE. ロジャーズ
10. ドロセアE. オレム
11. シスター・カリスタ・ロイ
12. ジーン・ワトソン
13. パトリシア・ベナー
- 14・15 理論を活用した研究のクリティーク

□ ■ 学習到達目標

1. 各理論の主要概念および内容、強調点、を理解できる。
2. 各理論がどのような看護場面において有効か理解できる。
3. 各理論を活用した看護研究をクリティークできる。

□ ■ 授業方法

講義、プレゼンテーション、ディスカッション

□ ■ 成績評価の方法

プレゼンテーション（70％）、定期試験（レポート）（30％）

□ ■ 教科書

筒井真優美編「看護理論家の業績と理論評価」 医学書院

□ ■ 参考書

Julia B. George 編, 南裕子 他 翻訳「看護理論集」 日本看護協会出版会
 正木治恵, 酒井郁子 編 「看護理論の活用ー看護実践の問題解決のために」 医歯薬出版株式会社
 勝又正直 「はじめての看護理論」 医学書院
 筒井真優美 編 「看護理論ー看護理論20の理解と実践への応用」 南江堂

□ ■ 授業時間外学習

4回目以降は学生がプレゼンテーションし、ディスカッションを行うので、その準備をする。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

□ ■ その他

【授業科目名】 看護倫理 (4N10021151) Nursing Ethics				
【担当教員】 大島弓子				
【実施期】	前期	【単位数】	2	【時間数】 30
【必修選択別】 必修 選択				
【対象学生】 看護学専攻(1年次)				

□■ 科目の概要

看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的な課題とアプローチおよび看護倫理に関する組織的な取り組みについても理解する。

□■ 授業の内容

- 1 学修内容の確認、学修希望、看護倫理に関して体験した問題、感じていること
- 2 看護倫理の意義とその必要性、医療倫理に対する社会からの要請
- 3 伝統的倫理学と近代的倫理学(1)
- 4 伝統的倫理学と近代的倫理学(2)プレゼンテーション
- 5 「倫理」の概念、倫理の原則、倫理と法律との関係、倫理的なジレンマ
- 6 生命倫理に対する考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地
- 7 看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義
- 8 看護実践における倫理的なコンピテンシー：倫理的な感受性、倫理的判断、倫理的な視点からの分析
- 9 看護実践における倫理的なコンピテンシー：倫理的なジレンマ・課題への調整等アプローチ、アサーション能力の育成
- 10 医療および看護場面における倫理的ジレンマ・課題についての事例の検討(1)
- 11 医療および看護場面における倫理的ジレンマ・課題についての事例の検討(2)
- 12 医療および看護場面における倫理的ジレンマと具体的なアプローチについての事例のプレゼンテーションと討論(1)
- 13 医療および看護場面における倫理的ジレンマと具体的なアプローチについての事例のプレゼンテーションと討論(2)
- 14 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、研究倫理の理解と具体的な取り組み
- 15 看護倫理の今後の課題と方向性、まとめ

□■ 授業方法

講義、討論、プレゼンテーション

□■ 成績評価の方法

課題発表・プレゼンテーション(50%)、レポート・試験(50%)

□■ 教科書

- 1) 日本看護協会監修「新版看護者の基本的責務」日本看護協会出版会。
- 2) サラT. フライ(片田範子他訳)「看護実践の倫理」、日本看護協会出版会。
- 3) ジョイスE. トンプソン, 他著, 山本千紗子監訳「意思決定10のステップ」日本看護協会出版会。

□■ 参考書

- 1) Taylor, C. : Fundamentals of Nursing, The Art and Science of Nursing Care、Unit1、`Values、Ethics、and Advocacy`、7th Edition、Lippincott Williams & Wilks.
 - 2) 和辻哲郎「人間の学としての倫理学」岩波書店。
- 他、講義時に紹介

□■ 授業時間外学習

- ①現在の世界(日本、海外)での状況の複数の新聞やメディアから情報を得て、倫理的な課題と自らが思うことを吟味して考える。複数の情報源を照らし合わせることを必ずすること。
- ②ソクラテス、アリストテレス、カント、ベンサムなど世界の思想史を復習すること。
- ③プラグマティズムや功利主義などの考え方はどのようなものか学修すること。

□■ 連絡先・オフィスアワー

□■ その他

[授業科目名]					看護教育論(4N10031151)										
					Nursing Education										
[担当教員]					土肥美子										
[実 施 期]		後 期		[単 位 数]		2		[時 間 数]		30		[必修選択別]		選択	
[対象学生]		看護学専攻(1年次)													

□ ■ 科目の概要

看護教育に関連する諸理論を学び、看護基礎教育・継続教育に関する計画立案・教育実践に関する演習を行う。また、看護ケアの質向上に影響する教育的課題を探索し、対象者への教育的な働きかけと教育環境の調整方法を検討する。

□ ■ 授業の内容

- 1 看護教育の概念、わが国における看護教育の歴史の変遷 (土肥)
- 2 看護教育に関連する学習理論 (土肥)
- 3 成人教育の特徴 (北島)
- 4 看護教育制度とカリキュラム (土肥)
- 5 教育方法論（１）：教育計画・教育方法等 (北島)
- 6 教育方法論（２）：実習指導 (北島)
- 7 教育方法論（３）：患者教育 (北島)
- 8 看護継続教育の特徴 (北島)
- 9 看護継続教育（１）：新人看護職の育成、臨床現場における看護教育の課題 (北島)
- 10 看護継続教育（２）：新人看護職の育成、臨床現場における看護教育の課題 (北島)
- 11 看護教育におけるトピックスおよび諸外国との比較・検討 (土肥)
- 12 教育評価（１）：教育計画・教育方法とその評価 (土肥)
- 13 教育評価（２）：教育計画・教育方法とその評価 (土肥)
- 14 教育評価（３）：教育計画・教育方法とその評価 (土肥)
- 15 看護教育における今後の課題と展望 (土肥)

□ ■ 学習到達目標

- ①看護教育に関連する学習理論をふまえて、教育方法と評価を理解する。
- ②看護ケアの質の向上のため、学生教育、患者教育、新人教育の実際を検討し、教育的課題を解決するための教育的な働きかけを探究する。

□ ■ 授業方法

講義、グループワーク、プレゼンテーション

□ ■ 成績評価の方法

プレゼンテーション（50％）、課題レポートが（50％）とする。

□ ■ 教科書

なし

□ ■ 参考書

必要に応じて指示する。

□ ■ 授業時間外学習

- ・学習目標の達成のため、各回指示する学習活動に積極的に取り組むこと。
- ・論文検索、プレゼンテーション時の準備が必要である。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

□ ■ その他

[授業科目名] 看護研究方法論(4N10041151) Methods in Nursing Research			
[担当教員] 菅田勝也 本多容子			
[実 施 期] 前期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 必修
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

科学的思考能力と研究論文をクリティークする能力を養い、研究課題を探索し、適切な研究方法を選択し、研究結果を正しく示すといった、学術論文を書くために必要な知識とスキルを習得し、さらに、研究成果を適切に活用する能力を身につける。

□ ■ 授業の内容

1. 研究の意義と研究方法の概観 (菅田)
2. 質的研究方法のデザイン (菅田)
3. ナラティブ・アプローチと内容分析の方法 (菅田)
4. エスノグラフィー (1)：技法と活用 (菅田)
5. エスノグラフィー (2)：研究論文のクリティーク (菅田)
6. グランデッド・セオリー・アプローチ (1)：理論生成の方法 (菅田)
7. グランデッド・セオリー・アプローチ (2)：研究論文のクリティーク (菅田)
8. 現象学的アプローチによる看護ケアの解明 (菅田)
9. 量的研究方法のデザイン (菅田)
10. 尺度法の理論と応用 (菅田)
11. 実験・準実験研究論文のクリティーク (本多)
12. 横断調査の研究論文のクリティーク (本多)
13. コホート研究の論文のクリティーク (本多)
14. ケース・コントロール研究の論文のクリティーク (本多)
15. ランダム化比較試験の研究論文のクリティーク (菅田)

□ ■ 学習到達目標

1. 研究論文をクリティークできる。
2. 研究課題を探索し、適切な研究方法を選択し、研究結果を正しく示すことができる。
3. 各専門領域における看護実践上の課題の解決のために、適切な研究成果を選択して適用できる。

□ ■ 授業方法

講義、プレゼンテーション

□ ■ 成績評価の方法

レポート (50%)、プレゼンテーション (50%)

□ ■ 教科書

特に指定しない。

□ ■ 参考書

必要に応じて担当教員が指定する。

□ ■ 授業時間外学習

毎回授業の復習をすること。
レポート課題に取り組むこと。
プレゼンテーションのための資料を作成すること。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

菅田

メールアドレス：k-kanda {@} aino.ac.jp ({@} は@に置き換えてください)

オフィスアワー：火曜日13時～17時

本多

メールアドレス：y-honda {@} ns-u.aino.ac.jp {@} は@に置き換えてください。

オフィスアワー：水曜日

□ ■ その他

[授業科目名] 発達医療保健論(4N10051151) Human Growth and Development			
[担当教員] 若宮英司			
[実 施 期] 前期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

小児発達を生理的現象として医学的に捉える視点を解説する。

□ ■ 授業の内容

- 1 導入・子どもの発達総論
小児の発達の領域別特異性－正常発達と異常発達
- 2 身体発達Ⅰ
体格および筋、骨格の変化、感覚器と感覚の発達
- 3 身体発達Ⅱ
臓器、内分泌、免疫系の発達
- 4 脳・神経系の発達
脳・神経系の解剖生理と小児期の変化
- 5 認知発達Ⅰ
脳・神経の変化と乳幼児期の認知の発達
- 6 認知発達Ⅱ
学童・思春期の認知の変化
- 7 心の発達と母子関係
母子アタッチメントと心理、認知面の発達の関係
- 8 心の発達と環境問題
環境が心理、認知、身体発達に及ぼす影響、虐待
- 9 社会性の発達と集団参加
対人性、社会性と幼児期以降の集団参加の問題点
- 10 運動の発達
感覚と運動の関係－乳児期の運動発達、その後の協調運動発達
- 11 子どもに用いる評価尺度
小児の発達を客観的指標で捉えるための方略とその問題点
- 12 子どもに用いる心理検査
代表的な心理検査とその特徴
- 13 生理検査と画像検査
より客観的な評価としての生理検査、画像、機能画像の原理
- 14 面接の進め方
小児と相対する際の留意点、ラポールの取り方、小児が示す行動から得られる情報
- 15 早期診断と早期介入
早期診断、早期介入の必要性とその問題点、取りこぼし、過剰診断

□ ■ 授業方法

講義形式で進める。

□ ■ 成績評価の方法

複数のレポートにより判断する。（100％）

□ ■ 教科書

特に定めず、資料により進める。

□ ■ 参考書

日野原 重明, 宮岡 等, 飯田 順三「脳とこころのプライマリケア 4 子どもの発達と行動」シナジー

□ ■ 授業時間外学習

不明確な点を質問して正確な知識とするため、学習した内容を復習しておくこと。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

若宮

eijiwak{@}hotmail.com （{@}は@に置き換えてください。） オフィスアワー：月曜日午前

今村

m-imamura {@} aino.ac.jp （{@}は@に置き換えてください） オフィスアワー：講義日の12:10～13:00

□ ■ その他

[授業科目名] 臨床心理学(4N10061151) Clinical Psychology			
[担当教員] 足利学 飯田英晴			
[実 施 期] 後期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

前半では医療、特に精神科領域で必要とされる精神症状や評価について臨床心理学的な観点から概観し、看護領域へ応用できるような内容である。後半では、近年、多死時代を迎え、緩和医療や訪問看護の領域でケアの手法の一つとして注目されている悲嘆（グリーフケア）、自死遺族へのサポートについて述べ、その後心理学的評価および心理カウンセリングに関する講義を行う。

□ ■ 授業の内容

- 1 精神症状とその評価 (1) : 神経症圏の症状とその評価 (飯田)
- 2 精神症状とその評価 (2) : 感情病圏の症状とその評価 (飯田)
- 3 精神症状とその評価 (3) : 感情病圏の症状とその評価 (飯田)
- 4 精神症状とその評価 (4) : 精神病圏の症状とその評価 (飯田)
- 5 精神症状とその評価 (5) : 精神病圏の症状とその評価 (飯田)
- 6 精神症状とその評価 (6) : 精神病圏の症状とその評価 (飯田)
- 7 悲嘆反応について (1) : 概論 (足利)
- 8 悲嘆反応について (2) : 自死をめぐる問題と自死遺族へのサポート (飯田)
- 9 悲嘆反応について (3) : 自死をめぐる問題と自死遺族へのサポート (飯田)
- 10 心理学的評価 (1) : 質問紙法 (足利)
- 11 心理学的評価 (2) : 投影法 (足利)
- 12 カウンセリングの技法 (1) : 傾聴の技法 (足利)
- 13 カウンセリングの技法 (2) : お互いの枠組みを知る (足利)
- 14 カウンセリングの演習 (1) : 認知行動療法の基礎 (足利)
- 15 カウンセリングの演習 (2) : 認知行動療法の実際 (足利)

□ ■ 学習到達目標

精神医学や臨床心理学の領域で用いられる各種評価（心理学的、行動学的）、悲嘆反応、カウンセリング技法についての体験的理解を深める。また、各種精神症状についての定義、症状の捉え方、評価の仕方について理解を深め、臨床の現場で実践できるようになると共に医療現場のスタッフへ知識と技術について教授できるようにすることを目的とする。

□ ■ 授業方法

講義と演習、小集団討論

□ ■ 成績評価の方法

ミニテスト（40％）、試験（60％）

□ ■ 教科書

必要な資料は随時配付する。

□ ■ 参考書

なし

□ ■ 授業時間外学習

講義終了後の復習を中心とした学習が必要である。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

m-ashikaga {@} ot-u.aino.ac.jp （{@} は@に置き換えてください）

メールアドレス : m-ashikaga@ot-u.aino.ac.jp

オフィスアワー : 火曜日3限目

□ ■ その他

[授業科目名] 医療保健システム論(4N10071151) Health Care System			
[担当教員] 小田泰宏			
[実 施 期] 前期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

市民生活のリスクを予防し、現実化したリスクからの回復を目的とする保健・医療・福祉という3つの社会セクターの構造と機能を、3者相互の有機的な関係性のもとに理解する。

□ ■ 授業の内容

- 1・2 「保健システム①」：医療保健システムの意義と医療保健統計サービスの需要・供給システムの構成要素、市民・患者の健康状態を示す統計
- 3・4 「保健システム②」：行政の構造と機能、健康増進中央・地方行政機構の仕組みとメタボ対策、健康日本21の推進体制や健康増進
- 5・6 「保健システム③」：疾病予防・感染疾患・難治疾患対策ライフステージ別、保健技術別に構成される保健対策の仕組みとその成果
- 7・8 「医療システム①」：病院・診療所・医師・看護師等医療施設の許認可の仕組み、医療計画や医療ビジョンの推進、医療従事者の養成と業務
- 9・10 「医療システム②」：医療保険・介護保険・高齢者医療制度社会保険の4要素（保険者、被保険者、保険料、保険給付）と近年の構造改革
- 11・12 「医療システム③」：医療保健の課題と近年の政策動向地域包括ケアと医療提供体制、少子高齢社会における国民皆保険の持続可能性
- 13・14 「福祉システム①」：医療保健と福祉の関係、金銭給付の制度医療保健システムと高齢化・低成長下の社会保障、特に年金・生活保護・社会手当
- 15 「福祉システム②」：福祉サービス障害者、高齢者、子ども等の自立支援サービスを提供する仕組み

□ ■ 学習到達目標

医療従事者が、より高度なチーム医療を実践するためには、自らの提供する看護やリハビリテーションというケアが医療保健制度というルートを通して患者のもとに到達する現状を一望俯瞰的な視座から理解し、ケアがより効果的であるための条件を見だし改善していく能力が必要である。このため、健康増進プログラムや医療提供体制、健康保険や介護保険、所得保障や福祉制度といった医療保健システム構成要素の構造と機能ならびに医療保健システム外の経済、社会、文化的要素との関連についての体系的な分析力を涵養する。

□ ■ 授業方法

どうすればサービスの内容が実証的かつ先端的たりえ、サービスの方法がそれぞれの専門職によって融合的に提供できるかについて、学生が自律的に考察しうるよう、各週1コマ目で、単なる知識や現状説明ではなく政策・制度を成り立たせている背景や理由に重点を置いた講義を行い、各週2コマ目では、受講生による報告、討論を行う。こうした方法により分野別専門科目の学習に発展的に繋げていく。

□ ■ 成績評価の方法

定期試験（レポート）（100％）

□ ■ 教科書

プリントを配布する。

□ ■ 参考書

厚生労働統計協会「国民衛生の動向」各年版

□ ■ 授業時間外学習

各週の講義前に60分程度、配布したプリントの予習を行うこと。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス y-oda{@}ns-u.aino.ac.jp （{@}は@に置き換えてください。）
オフィスアワー 火曜日9:30～10:30

□ ■ その他

[授業科目名] 感染防御論(4N10081151) Infection Prevention and Control			
[担当教員] 中田裕二			
[実 施 期] 前期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

病原微生物の感染機構、ヒトが備える感染・発症を防ぐための生体機構、化学療法剤による病原微生物の制御および薬剤耐性化機構について理解を深める内容を教示する。これらの知識を基にした、院内感染管理の方法について解説を行い、今後の対策方法についても考察する。

□ ■ 授業の内容

- 1 感染防御論概論
病原微生物と生体との関わり、全体像の解説
- 2 細菌の感染機構
各種細菌の感染機構と感染を防ぐ方法
- 3 真菌・原虫の感染機構
各種真菌・原虫の感染機構と感染を防ぐ方法
- 4 ウイルスの感染機構
各種ウイルスの感染機構と感染を防ぐ方法
- 5 免疫機構 (1)
自然免疫と生体の感染防御における問題点
- 6 免疫機構 (2)
獲得免疫と生体の感染防御における問題点
- 7 消毒薬の作用
各種消毒薬の作用と医療施設および地域保健における病原微生物への適切な使用方法
- 8 化学療法剤の作用
各種化学療法剤の作用と病原微生物への適切な使用方法
- 9 薬剤耐性化機構
細菌の薬剤耐性機構－不活化、透過性、排出系機構－
- 10 薬剤耐性菌による感染症 (1)
成人・老年看護で問題となる感染症、薬剤耐性菌拡大の現状・対策
- 11 薬剤耐性菌による感染症 (2)
小児および地域保健看護で問題となる感染症、薬剤耐性菌拡大の現状・対策
- 12 院内感染管理 (1)
院内感染管理におけるIPC(ICT)の役割
- 13 院内感染管理 (2)
現行の病原微生物サーベランス方法
- 14 院内感染管理 (3)
医療関連感染データの解析方法、情報源の検索と問題点
- 15 感染防御の発展に向けて
今後の医療施設および地域保健における感染防御方法

□ ■ 授業方法

テキストおよび配布プリントに沿って講義形式で進める。

□ ■ 成績評価の方法

定期試験レポート (80%)、確認小テスト (20%)

□ ■ 教科書

なし

□ ■ 参考書

岩田健太郎 監修「感染予防、そしてコントロールのマニュアル」
(メディカルサイエンス・インターナショナル)

□ ■ 授業時間外学習

毎時間講義の始めに確認小テストを行うので、各回の授業内容について復習し、理解しておくこと。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス y-nakada{@}ns-u.aino.ac.jp ({@}は@に置き換えてください。)
オフィスアワー 前期：金 12時～13時

□ ■ その他

[授業科目名] 医療統計学(4N10091151) Health Statistics			
[担当教員] 波多野浩道 五十嵐朗			
[実 施 期] 前期	[単位数] 2	[時間数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

現実の問題を「統計学的にみる」ことの意味がわかり、研究立案から論文発表に至るまでのプロセスごとに必要な統計学の基礎を修得することが本科目の目的である。

□ ■ 授業の内容

- 1 研究計画立案, 論文発表における医療統計学の役割 (波多野)
- 2 疫学研究デザイン (波多野)
- 3 因果推論と因果的効果の測定 (波多野)
- 4 データの表示と要約統計量 (五十嵐)
- 5 推定 (五十嵐)
- 6 統計的仮説検定の考え方 (五十嵐)
- 7 統計学的検定の選択と標本サイズの設定 (五十嵐)
- 8 分散分析 (五十嵐)
- 9 従属変数が生存時間の場合の解析法: 生存時間解析 (五十嵐)
- 10 観察研究におけるバイアスとその対処法 (五十嵐)
- 11 連続な結果変数をモデル化する解析法: 線形重回帰 (波多野)
- 12 分割表の解析 (波多野)
- 13 ロジスティック回帰 (波多野)
- 14 論文における統計解析のまとめ方と表現方法 (波多野)
- 15 レポートテーマディスカッション (波多野)

□ ■ 学習到達目標

医療統計学の役割, 疫学研究のデザインとコントロールの必要性, 観察研究におけるバイアスとバイアスを調整する統計的方法を理解し, 研究計画書, 論文発表において統計解析を記述できるようになる。

□ ■ 授業方法

講義とディスカッションによって授業を進める。

□ ■ 成績評価の方法

2度小テストを実施する。複数テーマから1つ選び、指定された関連文献をレビューし、自らの意見をレポートにまとめ、ディスカッションする。小テスト (40%), レポートとディスカッション (60%)

□ ■ 教科書

なし。随時, 資料を配布する。

□ ■ 参考書

- ①中野正孝, 他訳「論文が読める! 早わかり統計学 -臨床研究データを理解するためのエッセンス-」
メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ②折笠秀樹 監訳「はじめて学ぶ医療統計学」総合医学社
- ③折笠秀樹 監訳「一歩進んだ医療統計学」総合医学社
- ④矢野栄二他監訳 「ロスマンの疫学 第2版」 篠原出版

□ ■ 授業時間外学習

毎回の講義で学んだ手法等をSPSS, EZRを用いて、復習・応用する。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

波多野 h-hatano {@} ns-u.aino.ac.jp ({@} は@に置き換える) オフィスアワー: 講義日の17:30~18:00
五十嵐 a-ikarashi {@} me-u.aino.ac.jp ({@} は@に置き換える) オフィスアワー: 水曜日 16:30~18:00

□ ■ その他

[授業科目名] 国際看護論(4N10101171) International Nursing			
[担当教員] 上條優子			
[実 施 期] 後期	[単 位 数] 1	[時 間 数] 15	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

国際看護の実践に必要な基本的知識を習得し、国や地域、文化の多様性を理解し、地球規模の健康達成のために看護の果たすべき役割を探究する。

□ ■ 授業の内容

1. 国際看護学概論
2. 先進国の看護について（米国）
3. 異文化理解、在日外国人の健康課題について
4. 開発途上国における国際看護活動の実際（東ティモール他）
5. 開発途上国における国際看護活動の実際（南アフリカ他）
6. 国際看護学の研究論文のクリティーク
7. 地球規模の健康達成について（グループワーク）
8. 地球規模の健康達成について（プレゼンテーション）

□ ■ 学習到達目標

1. 世界の健康課題の現状を説明できる。
2. SDG s（Sustainable Development Goals）について説明できる。
3. 文化の多様性について説明できる。
4. 地球規模の健康達成について考えることができる。

□ ■ 授業方法

双方向性の講義、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを用いた参加型の授業とする。

□ ■ 成績評価の方法

レポート（60%） プレゼンテーション（40%）

□ ■ 教科書

なし

□ ■ 参考書

柳沢理子「国際看護学-看護の統合と実践 開発途上国への看護実践を踏まえて」ピラールプレス。
Werner & Sanders（著）. 池住義憲、若井晋（監訳）「いのち・開発・NGO-子どもの健康が地球社会を変える」新評論

□ ■ 授業時間外学習

1回目、8回目の授業後講義内容に関連した課題を課すのでレポート課題に取り組むこと。
8回目のプレゼンテーション発表のための資料を作成すること。
毎回授業の復習をすること。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

別途、指示する。

□ ■ その他

日本看護科学学会. 異文化看護データベース. <http://jans.umin.ac.jp/iinkai/intl/index02.html>

【授業科目名】 災害看護論(4N10111171) Disaster Nursing			
【担当教員】 西上あゆみ			
【実施期】 後期	【単位数】 1	【時間数】 15	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

災害、災害が発生することが人々の健康や生活にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。
災害発生前後における必要な看護活動について学ぶ。

□■ 授業の内容

- 1 災害や災害看護に関する基礎知識
- 2 過去に発生した災害と看護ケア
- 3 災害と災害時要配慮者（高齢者・小児）
- 4 災害と災害時要配慮者（慢性疾患・妊産褥婦）
- 5 施設（病院を中心に）における防災・備え
- 6 避難所における災害看護活動（査定）
- 7 避難所における災害看護活動（実践）
- 8 自身が関心を持つ災害看護に関連したテーマで発表

□■ 学習到達目標

災害発生が、人々の健康や生活にどのような影響を及ぼすか考察し、説明することができる。
災害発生前後における看護専門職としての必要な活動を説明することができる。

□■ 授業方法

講義と発表に関して討議を行いながら授業を進める。

□■ 成績評価の方法

レポート（70%）、発表（30%）

□■ 教科書

授業中に適宜資料を提示する。

□■ 参考書

授業中に適宜紹介する。

□■ 授業時間外学習

日常から災害発生と社会への影響、災害看護に関するニュース等に関心を持って調べておくこと。
授業後は、資料に沿って復習をしておくこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

□■ その他

[授業科目名] 先進看護論演習(4N10122181) Seminar in Advanced Nursing Practice			
[担当教員] 上條優子			
[実 施 期] 前期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

日米の保健医療システム、保健政策、社会制度、文化、看護職の役割等の違いを比較し、国際的な視野に立って看護の普遍的な概念、看護職の役割の多様性や発展の可能性について考察する。

□ ■ 授業の内容

- 事前学習 英語での自己紹介、医療英語の翻訳等
- 現地研修： Veteran hospital
- 現地研修： Nursing in the U.S.
- 現地研修： Advanced Nursing in the U.S.
(Nurse practitioner, Nurse Midwife, Nurse Anesthetist, CNS)
- 現地研修： Nursing career for Japanese nurses in the U.S.
- 現地研修： Ethics in Nursing
- 現地研修： 施設見学
- 現地研修： 施設見学
- 現地研修： Addiction Nursing
- 現地研修： Palliative care or Hospice care
- 現地研修： Skills lab
- 現地研修： Women's health
- 現地研修： Health disparities among immigrant, refugee and minorities in USA
- 現地研修： Forensic Nursing, HIV/AIDS
- 帰国後発表会（パワーポイント使用）

□ ■ 授業方法

米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校での現地研修
(講義、グループワーク、プレゼンテーション、病院・施設見学)
現地研修のための事前学習および、帰国後の発表会

□ ■ 成績評価の方法

事前学習 (20%) 現地研修参加度 (50%) プレゼンテーション (30%)

□ ■ 教科書

なし。

□ ■ 参考書

なし。

□ ■ 授業時間外学習

毎回授業の復習をすること。
事前学習として授業内容の英語について調べておくこと。
海外演習のためのオリエンテーションに参加すること。
適宜レポートを課すのでレポート課題に取り組むこと。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

別途、指示する。

□ ■ その他

参加費用が別途必要。
最少催行人数に満たない場合は開講しないことがある。

[授業科目名]				
成育看護学特論Ⅰ(4N20011151) Nursing Science of Child Health and DevelopmentⅠ				
[担当教員]				
今村美幸				
[実施期]		[単位数]		[時間数]
前期		2		30
[必修選択別]				選択
[対象学生]				
看護学専攻(1年次)				

□■ 科目の概要

成育看護の基盤となる子どもの成長・発達諸理論について学び、子どもの育ちの環境（親・親の養育態度、家族）による影響や、子どもを取り巻く今日的課題について理解を深める。子どもの発達評価や健康評価への理解を深め、子どものよりよい成長発達を促進するための包括的看護を探究する。
成育看護学および家族看護学の関連領域の文献を講読し、子どもの問題がその家族に及ぼす影響を考察し、家族に及ぼす影響を最小にする家族アセスメント能力と問題解決能力を育成する。

□■ 授業の内容

- 1 attachment発達理論(Bowlby)
- 2 乳幼児期からの心理社会的発達 (Ericsson)
- 3 親子関係と認知発達(Piaget)
乳幼児期の母子関係と遊びの重要性
- 4 乳児期～思春期後期の道徳性の発達課題 (Havighurst)
- 5 子どもの発達の問題・養育者の問題
①乳幼児期の母子関係の形成不全
- 6 子どもの発達の問題・養育者の問題
②子ども虐待とネグレクト
- 7 子どもの発達の問題・養育者の問題
③子育てを知らない親世代の子育てと地域支援
- 8 「親となる」親の発達 (Thomas Gordon)
母性とは、父性とは、育児性とは
- 9 親になれない親と子どもの発達
- 10 母親の育児不安と子どもの発達
父親の育児参加や母親の育ちの連鎖が招く不適切な養育態度の問題と地域支援の研究課題
- 11 特別講演
- 12 「家族」の概念理解、家族看護学の理論(CFATM)とアセスメント (Wright)
- 13 家族機能・家族システムとアプローチ
- 14 ストレスコーピング理論 (プレパレーション)
プレパレーションによるストレスの対処能力の向上とレジリエンス
- 15 子どものレジリエンスを高める看護
プレパレーションの概念 (チャイルドライフにおける目的、意義、方法、効果)

□■ 授業方法

講義およびセミナー形式で行う。

□■ 成績評価の方法

文献購読のクリティーク(20%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)で評価する。

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

適宜紹介する。

□■ 授業時間外学習

毎回、事前に講義内容に関する文献を読み、意見交換ができるように準備すること。

□■ 連絡先・オフィスアワー

今村 m-imamura{@}ns-u.aino.ac.jp ({@} は@に置き換えてください)
講義日の12:10～13:00

□■ その他

□■ 学習到達目標

- 1 子どもの発達諸理論について説明できる。
- 2 子どもの育ちの環境と成長発達への影響、子どもを取り巻く今日的課題について説明できる
- 3 成育看護学および家族看護学に関する論文から家族アセスメント能力、問題解決能力を身につける。
- 4 子どもの成長発達を促すための包括的看護について熟考できる。

[授業科目名] 成育看護学特論Ⅱ(4N20021151) Nursing Science of Child Health and Development II			
[担当教員] 若宮英司 今村美幸			
[実施期]	前期	[単位数]	2
		[時間数]	30
		[必修選択別]	選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

前半に発達障害概論を学び、後半には発達障害をもつ子どもと家族に対する対応を理解する。

□■ 授業の内容

- 1 発達性協調運動障害 (若宮)
- 2 自閉症スペクトラム、注意欠陥・多動性障害、感覚受容、運動出力とその調節 (若宮)
- 3 学習障害・言語障害 (若宮)
- 4 素行障害・反抗挑戦性障害・反応性愛着障害 (若宮)
- 5 まとめ 正常発達とは何か (若宮)
- 6 障がいをもつ子どもの看護 (今村)
- 7 発達の障がいと発達援助(1):運動発達とその援助 (今村)
- 8 発達の障がいと発達援助(2):乳幼児の生活援助 (今村)
- 9 発達の障がいをもつ乳幼児の基本的生活習慣の確立への援助 (今村)
- 10 発達の遅れと援助 (今村)
- 11 親と子・援助者の相互作用の理解 (今村)
- 12 障がい児をもつ親の問題 (今村)
- 13 子どもと家族(特に母親の心理変化)の看護への理解 (今村)
- 14 カルガリー式家族看護の理解(家族システム理論)、障がいをもつ子どもと家族の支援(家族行動療法)の在り方への理解 (今村)
- 15 重症心身障がい児と家族の援助 (今村)

□■ 学習到達目標

障がいをもつ子どもの特性を、障がいをもつ子どもの発達の遅延と偏位の視点から分析的にとらえる。その理解の上にたち、子どもの行動と認知の正常発達の個人間あるいは個人内較差について客観的に捉えることができるようにし、障がいをもつ子どもと家族の看護に関する理解を深める。

□■ 授業方法

講義形式で進める

□■ 成績評価の方法

複数のレポートにより判断する。(100%)

□■ 教科書

特に定めず、資料により進める。

□■ 参考書

- ①日野原 重明, 宮岡 等, 飯田 順三「脳とこころのプライマリケア 4 子どもの発達と行動」シナジー
- ②山崎晃資「現代児童青年精神医学」永井書店

□■ 授業時間外学習

不明確な点を質問して正確な知識とするため、学習した内容を復習しておくこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

若宮

メールアドレス: eijiwak {@} hotmail.com ({@} は@に置き換えてください)

オフィスアワー: 月曜日午前

今村

メールアドレス: m-imamura {@} ns-u.aino.ac.jp ({@} は@に置き換えてください)

オフィスアワー: 講義日の12:10~13:00

□■ その他

【授業科目名】 成育看護学演習Ⅰ(4N20032151) Seminar in Nursing Science of Child Health and DevelopmentⅠ			
【担当教員】 今村美幸			
【実施期】 後期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

発達スクリーニング検査の演習や保育園実習を通して、子どもの成長発達評価と健康評価を理解する。家族看護のアセスメントは、カルガリー式家族看護モデルの演習を通して理解する。家族アセスメントを行い、子どもと家族のストレスコーピング能力を高めるための方策についての理解を深める。

□■ 授業の内容

- 1 日本版デンバー式発達スクリーニングテスト
(Denver Developmental Screening Test)
子どもたちの発達の歪みや遅れの発見
- 2 カルガリー家族看護介入モデル
(Family Assessment and Intervention)
「家族システム看護」理論の理解
- 3～8 子どもの発達プロセスのアセスメント研修
(聖天保育所第二和光園)
①研修課題設定, 研修計画書作成
②研修
③研修のまとめ
- 9～14 NICU/GCUでの家族看研修(兵庫県立尼崎総合医療センター)
①研修課題設定, 研修計画書作成
②研修
③研修のまとめ
- 15 まとめ

□■ 学習到達目標

- 1 発達スクリーニング検査の演習や実習を通して、子どもの成長発達評価と健康評価ができる。
- 2 カルガリー式家族看護モデルを用いて家族アセスメントを行うことができる。
- 3 家族アセスメントをもとに、家族のセルフケア能力を高める方策を熟考できる。

□■ 授業方法

論文購読、演習、実習

□■ 成績評価の方法

演習や文献クリティーク(20%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)

□■ 教科書

- ①上田礼子「日本版デンバー式発達スクリーニング検査」医歯薬出版
- ②田中敏・山際勇一郎：ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法, 教育出版

□■ 参考書

適宜紹介する。

□■ 授業時間外学習

研修に必要な自己学習を行うこと。
意見交換ができるように準備を行うこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

今村

メールアドレス：m-imamura {@} ns-u.aino.ac.jp ({@} は@に置き換えてください)

オフィスアワー：講義日の12:10～13:00

□■ その他

【授業科目名】 成育看護学演習Ⅱ(4N20042151) Seminar in Nursing Science of Child Health and Development II			
【担当教員】 若宮英司 今村美幸			
【実施期】 後期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

前半には、実際の評価バッテリーを使い、認知検査の具体的な内容を理解する。
後半には、事例検討と研究論文抄読を通じて、障がいをもつ子どもの具体像と対応方略のイメージをつかむ。

□■ 授業の内容

- 1 知能検査及び認知機能検査（WISC-IV、DN-CAS）の基本的な内容の理解 (若宮)
- 2～3 WISC-IVの模擬的検査による手技習得と評価の臨床的意義の理解 (若宮)
- 4～5 DN-CAS の模擬的検査による手技習得と評価の臨床的意義の理解 (若宮)
- 6 異なる検査の評価法の比較による全般的知能、認知機能についての考察 (若宮)
- 7～9 文献より実際の臨床例のデータを引用し、発達障害の症状がどのような認知・感覚・運動基盤の逸脱の上に生じているかを理解する。 (若宮・今村)
- 10 アスペルガー症候群の(発達・困難性・援助)理解と事例のディスカッション (今村)
- 11 アスペルガー症候群の研究論文の講読・クリティーク・プレゼンテーション(援助・支援を中心に) (今村)
- 12 ダウン症候群(VTR)の(精神発達・言語・基本的生活の遅れ)理解と事例のディスカッション (今村)
- 13 ダウン症候群の研究論文の講読・クリティーク・プレゼンテーション(援助・支援を中心に) (今村)
- 14 自閉的傾向の子どもの理解と事例(VTR)のディスカッション (今村)
- 15 自閉的傾向の子どもの研究論文の講読・クリティーク・プレゼンテーション(援助・支援を中心に) (今村)

□■ 学習到達目標

子どもの発達障害に関する基本的な評価手法の手技と評価の意義を理解し、その中で発達障害に認められる症状群の評価視点を広げていく。障がいをもつ子どもの発達支援と家族の支援のありかたを文献から、分析的に考察し、障がいをもつ子どもと家族の今後の課題、特に支援について検討考察する。

□■ 授業方法

論文講読やVTRから、事例のディスカッションを行い、プレゼンテーションをする。演習は実際の検査バッテリーや資料を用いて行う。また、医療型児童発達支援センター「藍野療育園」での実地演習を行う。

□■ 成績評価の方法

演習（80％）、レポート（20％）

□■ 教科書

障がい児の発達の理解と援助のVTR(視聴覚教材)。
ほか、適宜資料を提供する。

□■ 参考書

特に定めず、適宜資料を提供する。

□■ 授業時間外学習

不明確な点を質問して正確な知識とするため、学習した内容を復習しておくこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

若宮

メールアドレス：eijiwak@hotmail.com

オフィスアワー：月曜日午前

今村

メールアドレス：m-imamura {@} ns-u.aino.ac.jp （{@} は@に置き換えてください）

オフィスアワー：講義日の12:10～13:00

□■ その他

[授業科目名] 成育看護学特別研究(4N20052151) Master's Thesis/Research Project			
[担当教員] 今村美幸			
[実 施 期] 通年	[単 位 数] 8	[時 間 数] 120	[必修選択別] 必修
[対象学生] 看護学専攻(2年次)			

□ ■ 科目の概要

前年度に作成した研究計画書と承認された研究倫理審査結果に基づき、指導教員の指導のもとで、さらなる文献検討や専門領域内外でのディスカッションにより、研究遂行上の問題を解決しながら研究を進め、修士論文を完成させる。

□ ■ 授業の内容

授業の内容

1～56 研究計画書に沿った研究の実施

- ・データ収集
- ・分析
- ・論文作成

57～58 公開発表会

59～60 論文の修正、完成

□ ■ 学習到達目標

- 1 研究計画書に沿ったデータ収集・分析・論文作成ができる
- 2 発表に向けたプレゼンテーション資料を作成できる
- 3 発表時の態度やマナーを身につける

※特別研究においては、1年次より研究テーマの探索など準備が行われるため、65ページに研究指導・修士論文作成の全体のスケジュールを添付する。

(今村 美幸)

障がいのある子どもや家族支援に関する研究、障がいのある子どもへの支援技術に関する研究、子どもと親に関わる専門チームとの協働・連携、親と子の愛着形成などに関する研究課題を持つ学生へ、一連の研究過程を通して研究指導を行う。

□ ■ 授業方法

個人ワーク、教員とのディスカッション、領域ゼミでのディスカッション、プレゼンテーション

□ ■ 成績評価の方法

審査委員会による修士論文審査により評価する。

□ ■ 教科書

特に指定しない。

□ ■ 参考書

必要に応じて担当教員が指定する。

□ ■ 授業時間外学習

毎回、プレゼンテーションおよびディスカッションが中心となるため事前準備を行う。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

今村

メールアドレス：m-imamura { } ns-u.aino.ac.jp ({ } は@に置き換えてください)

オフィスアワー：講義日の12:10～13:00

□ ■ その他

[授業科目名] 高齢者看護学特論 I (4N20061151) Gerontological Nursing I			
[担当教員] 本多容子			
[実 施 期] 前期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

高齢者看護に関する諸理論を学び、実践能力および専門性の向上をはかる。
授業はゼミ方式で行い、文献クリティークやプレゼンテーションを通して理論的基盤の確立を目指す。

□ ■ 授業の内容

1. 高齢者とは何か
2. 高齢者の身体的側面：加齢の特徴と身体的側面の変化と看護
3. 高齢者の心理的側面：高齢者の心理的側面の変化と看護
4. 高齢者の社会的側面：統計的動向と高齢者の社会的側面の変化
5. 高齢者の権利擁護（1）：法的背景と現状
6. 高齢者の権利擁護（2）：倫理的問題
7. 高齢者看護の役割（1）高齢者看護の高度化・専門化の現状と課題
8. 高齢者看護の役割（2）高齢者看護に活用される、理論・概念
9. 認知症（1）：疾患と治療
10. 認知症（2）：看護
11. 認知症（3）：今後の課題と取り組み
12. 入院中の高齢者看護（1）：入院に伴う生活変化と療養環境の調整
13. 入院中の高齢者看護（2）：リスク管理と行動制限
14. 退院支援：退院調整、家族への支援
15. まとめ

□ ■ 授業方法

講義およびゼミ形式

□ ■ 成績評価の方法

発表（50％）、レポート（50％）

□ ■ 教科書

特に指定しない。

□ ■ 参考書

講義の中で適宜紹介する。

□ ■ 授業時間外学習

課題を指示するほか、各自で必要な自己学習を行うこと。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：y-honda{@}ns-u.aino.ac.jp {@}は@に置き換えてください。
オフィスアワー：水曜日

□ ■ その他

[授業科目名] 高齢者看護学特論Ⅱ (4N20071151) Gerontological Nursing II				
[担当教員] 本多容子				
[実 施 期]	前期	[単 位 数]	2	[時 間 数] 30 [必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)				

□ ■ 科目の概要

高齢者看護における方法論を総合的に学び、問題解決能力の向上をはかる。
講義はゼミ方式で行い、自由な意見交換と課題探求を行う。

□ ■ 授業の内容

1. 高齢者看護実践の場 (1) : 病院、療養施設における高齢者
2. 高齢者看護実践の場 (2) : 在宅における高齢者看護
3. 高齢者看護実践の場 (3) : 家族支援、地域連携
4. 生活機能を整える看護 (1) : 日常生活動作に関する看護
5. 生活機能を整える看護 (2) : 食事に関する看護、口腔ケア
6. 生活機能を整える看護 (3) : 排泄に関する看護
7. 生活機能を整える看護 (4) : 清潔に関する看護、清潔セルフケア
8. 生活機能を整える看護 (5) : 生活リズムを整える看護
9. 生活機能を整える看護 (6) : コミュニケーション障害の看護
10. ヘルスプロモーション (1) : 社会資源と法的根拠
11. ヘルスプロモーション (2) : 介護予防
12. ヘルスプロモーション (3) : 生活習慣病予防
13. ヘルスプロモーション (4) : 転倒予防
14. ヘルスプロモーション (5) : 認知症予防
15. まとめ

□ ■ 授業方法

講義およびゼミ形式

□ ■ 成績評価の方法

発表 (50%)、レポート (50%)

□ ■ 教科書

特に指定しない。

□ ■ 参考書

講義の中で適宜紹介する。

□ ■ 授業時間外学習

適宜課題を出す、各自必要な自己学習を行うこと。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス : y-honda{@}ns-u.aino.ac.jp { @}は@に置き換えてください。
オフィスアワー : 水曜日

□ ■ その他

□ ■ 学習到達目標

1. 高齢者に対する看護実践の方法論を学ぶ。
2. 課題解決に必要な思考能力および問題解決能力を養う。

[授業科目名] 高齢者看護学演習 I (4N20082151) Seminar in Gerontological Nursing I			
[担当教員] 本多容子			
[実 施 期] 後期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

外部施設での研修を通して、高齢者看護の実践能力および専門性の向上をはかる。
研修は、自己の研究課題や学術的関心に沿って、目的、内容、方法を自由に設定する。

□ ■ 授業の内容

1. オリエンテーション
2. ～6. 研修1：高齢者施設における「看取り」
(研修場所：特別養護老人ホームラヴィータウノ)
 - ・課題設定
 - ・研修計画書の作成
 - ・事前準備
 - ・研修
 - ・まとめ及び報告書の作成
7. ～14. 研修2：認知症看護の実践
(研修場所：財団法人療道協会 西山病院)
 - ・課題設定
 - ・研修計画書の作成
 - ・事前準備
 - ・病院見学、研修指導者との打ち合わせ
 - ・研修
 - ・まとめ及び報告書の作成

15. まとめ

※備考 研修は別途日程を調整する

□ ■ 授業方法

講義および実地研修

□ ■ 成績評価の方法

研修1の研修状況、計画書、報告書、レポート (40%)
研修2の研修状況、計画書、報告書、レポート (60%)

□ ■ 教科書

特に指定しない。

□ ■ 参考書

講義の中で適宜紹介する。

□ ■ 授業時間外学習

各自で研修に必要な自己学習を行うこと

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：y-honda{@}ns-u.aino.ac.jp {@}は@に置き換えてください。
オフィスアワー：水曜日

□ ■ その他

【授業科目名】 高齢者看護学演習Ⅱ (4N20092151) Seminar in Gerontological Nursing II			
【担当教員】 本多容子			
【実施期】 後期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

高齢者看護実践現場での研修を通して、思考能力と臨床現場に還元できる問題解決力を備えた看護実践能力の向上を目指す。

研修1は、自己の研究課題や学術的関心に沿って、目的、内容、方法を自由に設定する。

研修2は、研修場所のプログラムに沿うことを原則とするが、特に希望する研修があれば実践が可能となるよう調整する。

□ ■ 授業の内容

1. オリエンテーション

2. ～8. 研修1：高齢者施設における終末期看護
(研修場所：介護老人福祉施設洛和ヴィラ桃山)

- ・課題設定
- ・研修計画書の作成
- ・研修
- ・まとめ及び研修報告書の作成

9. ～14. 研修2：高齢者の在宅看護
(研修場所：あいの訪問看護ステーション)

- ・課題設定
- ・研修
- ・まとめ及び研修報告書の作成

15. まとめ

※備考 研修は別途日程を調整する

□ ■ 授業方法

講義方式および実地研修

□ ■ 成績評価の方法

研修1の研修状況、計画書、報告書、レポート (50%)

研修2の研修状況、報告書、報告書、レポート (50%)

□ ■ 教科書

指定しない。

□ ■ 参考書

適宜紹介する。

□ ■ 授業時間外学習

各自研修に必要な自己学習を行うこと

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：本多 y-honda{@}ns-u.aino.ac.jp {@}は@に置き換えてください。

オフィスアワー：水曜日

□ ■ その他

【授業科目名】 高齢者看護学特別研究(4N20102151) Master's Thesis/Research Project			
【担当教員】 本多容子			
【実施期】 通年	【単位数】 8	【時間数】 120	【必修選択別】 必修
【対象学生】 看護学専攻(2年次)			

□ ■ 科目の概要

前年度に作成した研究計画書と承認された研究倫理審査結果に基づき、指導教員の指導のもとで、さらなる文献検討や専門領域内外でのディスカッションにより、研究遂行上の問題を解決しながら研究を進め、修士論文を完成させる。

□ ■ 授業の内容

1～56 研究計画書に沿った研究の実施

- ・データ収集
- ・分析
- ・論文作成

57～58 公開発表会

59～60 論文の修正、完成

□ ■ 学習到達目標

研究遂行上の問題を解決しながら研究を進め、修士論文を完成させる。

※特別研究においては、1年次より研究テーマの探索など準備が行われるため、65ページに研究指導・修士論文作成の全体のスケジュールを添付する。

(本多 容子)

高齢者の転倒予防に関する研究、高齢者の介護予防に関する研究、高齢者の看護技術に関する研究を中心に、各自の興味・関心に沿って高齢者看護学領域の研究テーマを設定し、指導教員およびゼミでのディスカッションを通して研究上の問題を解決しながら、修士論文を作成する。

□ ■ 授業方法

個人ワーク、教員とのディスカッション、領域ゼミでのディスカッション、プレゼンテーション

□ ■ 成績評価の方法

審査委員会による修士論文審査により評価する。

□ ■ 教科書

特に指定しない。

□ ■ 参考書

必要に応じて担当教員が指定する。

□ ■ 授業時間外学習

課題を指示するほか、各自で必要な自己学習を行うこと。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：y-honda{@}ns-u.aino.ac.jp {@}は@に置き換えてください。

オフィスアワー：水曜日

□ ■ その他

【授業科目名】 精神看護学特論 I (4N20111151) Psychiatric and Mental Health Nursing I			
【担当教員】 杉山敏宏			
【実施期】 前期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

精神障がい者の処遇や精神保健福祉に関する制度・政策を初文献から検討し、歴史的変遷を踏まえノーマライゼーションや倫理的な視点から、今後の課題や展望、看護者の役割について検討する。また、精神科臨床看護の質の向上に向けた対象理解や構造的な援助方法について理解をする。その後、地域における自立生活支援に向けた保健・医療・福祉の連携と協働、システム化について考察する。

□■ 授業の内容

- 日本の処遇史の分析
ソーシャルロールバリゼーションの視点による検討
- 日本における精神医療・看護の現状分析
- 精神科領域における障がいの構造とアプローチ
- 障害構造論の実際
上田モデル、蜂矢モデル、中沢モデル、山根モデルの紹介
- 精神科リハビリテーション
理念と意義、トータルリハビリテーションの考え方と展開
- 地域における自立生活を支えるケアマネジメント
目的、原則、構成要素、ケアマネジメントの過程
- 当事者活動 (self-help)
self-helpの歴史と概念、日本におけるself-help活動とその機能と役割
- 精神を病む当事者と家族支援 (1)
生活史と病歴を踏まえた患者の全体像の構造化の実際
- 精神を病む当事者と家族支援 (2)
臨床における事例検討の構造と展開
- 精神を病む当事者と家族支援 (3)
家族アセスメントとジェノグラム・エコマップの活用
- 精神を病む当事者と家族支援 (4)
退院調整、訪問看護と社会資源の活用
- 地域自立支援に向けた保健・医療・福祉の連携と協働
- セルフケア理論 (1)
セルフケアの捉え方、オレム看護理論の特性と構造
- セルフケア理論 (2)
アンダーウッド看護理論の特性と構造、臨床への活用事例の紹介
- コンサルテーション看護
定義、目的、患者中心の事例を通したコンサルテーション

□■ 学習到達目標

精神障がい者の処遇をふまえ、精神科リハビリテーションの観点から入院や地域におけるQOL向上と自立生活支援について探求し、精神科看護の専門的な実践および教育・指導に向けた深化を図る。

□■ 授業方法

講義、文献検討、プレゼンテーションおよびディスカッション（参考図書や授業で配布した資料、関連書籍を通して内容の理解を深めていく）

□■ 成績評価の方法

プレゼンテーション（50％）、レポート（50％）

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

適宜紹介する。

□■ 授業時間外学習

課題を指示するほか、各自で必要な自己学習を行うこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

t-sugiyama{@}aino.ac.jp （{@}は@に置き換える）

□■ その他

【授業科目名】 精神看護学特論Ⅱ (4N20121151) Psychiatric and Mental Health Nursing II			
【担当教員】 杉山敏宏			
【実施期】 前期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

コミュニティの変動に伴う社会原理として現われている問題に関する要因・課題を踏まえて、ライフサイクルや生活の場（家庭、学校、職場、地域）における精神保健への影響について発達理論や危機理論、ストレス理論等を踏まえて理解する。さらに精神保健の対象に向けた支援について、文献検討、プレゼンテーションおよびディスカッションを通して諸理論の特徴を通じた実践への適応について理解を深める。

□■ 授業の内容

- 現代社会の病理と分析、精神保健の概念と課題
- 発達理論（1）：フロイト、エリクソン等
- 発達理論（2）：マラー、ボイルビー等
- 危機介入理論と実際
歴史的発達、危機の段階と介入方法、危機介入への問題解決アプローチ
- 事例を通じた危機介入への問題解決アプローチの実際
- ストレス理論
セリエとラザルスのストレス理論の比較、ストレス評価尺度関連の紹介
- ストレスマネジメント教育
教育目標と基本事項、健康教育への展開、ストレスマネジメント教育・指導の進め方
- コミュニティの変動による社会病理とライフサイクル各期における危機
- 場（家庭）と精神保健：家族関係における病理と要因、予防と介入
- 場（学校）と精神保健：学校社会の人間関係における病理と要因、予防と介入
- 場（職場）と精神保健：職場の人間関係における病理と要因、予防と介入
- 癒やしと自己探求（1）：内観
内観の歴史、目的と方法、効果、自己探求としての内観と臨床における治療的意義と適用
- 癒やしと自己探求（2）：ラボラトリーメソッド
ラボラトリーメソッドの考え方と構成、プログラミングと体験学習の意義と活用
- 癒やしと自己探求（3）：リスニング&アサーション
リスニング教育の目標と活用、アサーションの理論と活用
- まとめ
12～14の臨床現場における教育的意義と指導展開に向けた実践への適用への考察

□■ 学習到達目標

コミュニティの変動に伴うライフサイクルや生活の場における精神保健に関わる問題について、諸理論をふまえて現象の理解や課題解決への実践および教育・指導に向けた理解を深める。

□■ 授業方法

講義、文献検討、プレゼンテーションおよびディスカッション（参考図書や授業で配布した資料、関連書籍を通して内容の理解を深めていく）

□■ 成績評価の方法

プレゼンテーション（50％）、レポート（50％）

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

適宜紹介する。

□■ 授業時間外学習

課題を指示するほか、各自で必要な自己学習を行うこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

t-sugiyama{@}aino.ac.jp （{@}は@に置き換える）

□■ その他

【授業科目名】 精神看護学演習 I (4N20132151) Seminar in Psychiatric and Mental Health Nursing I			
【担当教員】 杉山敏宏			
【実施期】 後期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

ライフサイクルや生活の場における精神保健に関する諸理論の知識を用いた対人関係・ストレス対処のスキルや内観体験等実際の展開を通して、看護者として介入に向けた理解を深める。また精神科臨床看護の構造的な援助方法（障害構造論モデル、アンダーウッド理論等）や家族機能アセスメントを活用した事例展開を通して理解を深め、実践との適合を図り、臨床における教育・指導能力を向上させる。

□■ 授業の内容

- 1 対人関係・ストレス対処のスキル (1)
健康教育・予防教育に向けたストレスマネジメントによる指導案の作成
- 2 対人関係・ストレス対処のスキル (2)
事例を通したリスニング教育とアサーションの実践
- 3 ラボラトリートレーニングの実施
対人関係、コミュニケーション、自己理解・他者理解に関する体験学習を予定
- 4～6 ミニ内観体験と記録内観の実施
- 7 内観療法の実践（アルコール依存症の体験談を通した展開を予定）
- 8 アンダーウッド理論を用いた入院生活への援助 (1)
（社会人学生は所属する病院から事例を持参する）
統合失調症の事例を用いたセルフケア能力の査定
- 9～13 YOU医療保健福祉研究所 訪問看護・リハビリテーションセンターYOUにおける地域における自立支援に向けた研修
 - 1) 訪問看護に同行し、統合失調症者への社会生活能力・対人関係能力の向上に向けた援助を、中澤モデル（障害構造論）をとおして分析
 - 2) 訪問事例を通した家族機能のアセスメントとジェノグラム・エコマップの作成
 - 3) ケアマネジメントの会議に参加し、地域ケア・支援に向けた保健・医療・福祉の連携と看護の役割に関する検討
- 14 事例を通した家族機能のアセスメントとジェノグラム・エコマップの描き方と使い方の実際
不登校、統合失調症、うつ病のいずれかの事例で展開予定
- 15 地域ケア・支援に向けた保健・医療・福祉の連携と看護の役割に関する課題の検討

□■ 学習到達目標

精神保健や精神科看護に関わる援助の実践について体験を通して理解を深め、実践や教育・指導に深化に向けた習得を図る。

□■ 授業方法

演習、文献検討、プレゼンテーションおよびディスカッション

□■ 成績評価の方法

プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

適宜紹介する。

□■ 授業時間外学習

課題を指示するほか、各自で必要な自己学習を行うこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

t-sugiyama{@}aino.ac.jp （{@}は@に置き換える）

□■ その他

[授業科目名] 精神看護学演習Ⅱ(4N20142151) Seminar in Psychiatric and Mental Health Nursing II			
[担当教員] 別途伝達			
[実 施 期] 後期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

精神保健看護学の知見を得て、自己の研究テーマの焦点化に向けて、資料の収集と分類・整理、文献クリティーク、先行研究レビューについて学習し、自己の研究課題について検討する。また、研究の一連のプロセス（研究計画書の作成、インタビューの実際、逐語記録の作成、論文作成の要点等）や研究方法の実際を体験し、修士論文作成に向けた理解とスキルの習得を図る。

□■ 授業の内容

- 1～2 精神保健看護学領域に関する研究の動向把握と臨床的課題の考察
- 3 文献クリティークと文献リストの作成方法とポイント
- 4～5 先行研究のレビューと文献クリティーク
- 6 自己の研究課題に向けた検討
- 7 研究計画書の内容と倫理審査に向けた作成について
- 8 量的研究について (1)
調査表の仮説に基づく枠組みと作成方法
- 9 量的研究について (2)
SPSSの手法と解析の実際
- 10 質的研究について (1)
インタビューの方法と練習
- 11 質的研究について (2)
逐語記録の作成
- 12 質的研究について (3)
GTAによる質的分析の実際と概念図の作成方法
- 13 テキストマイニングについて (1)
テキストマイニングの考え方と手法
- 14 テキストマイニングについて (2)
解析の実際；単語頻度分析、注目分析、ことばネットワーク、
評判分析等
- 15 論文作成の実際
論文の構成と作成のルール、資料の使い方

□■ 学習到達目標

自己の研究のテーマの焦点化を図り、論文作成に必要な研究方法を習得する。

□■ 授業方法

演習、文献検討、プレゼンテーションおよびディスカッション（実際の研究論文やデータを用いて展開するので、主体的かつ能動的な参加が前提となる）

□■ 成績評価の方法

プレゼンテーション（50％）、レポート（50％）

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

適宜紹介する。

□■ 授業時間外学習

課題を指示するほか、各自で必要な自己学習を行うこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

□■ その他

[授業科目名] 精神看護学特別研究(4N20152151) Master's Thesis/Research Project			
[担当教員] 別途伝達			
[実 施 期] 通年	[単 位 数] 8	[時 間 数] 120	[必修選択別] 必修
[対象学生] 看護学専攻(2年次)			

□■ 科目の概要

研究指導教員の指導のもとで、修士論文を作成する。

□■ 授業の内容

1～56 研究計画書に沿った研究の実施

- ・データ収集
- ・分析
- ・論文作成

57～58 公開発表会

59～60 論文の修正、完成

※特別研究においては、1年次より研究テーマの探索など準備が行われるため、65ページに研究指導・修士論文作成の全体のスケジュールを添付する。

精神保健に向けた健康なまちづくりとライフサイクル各期に応じたサポートシステム、職場のメンタルヘルス、自己探求としての内観の効果、精神障がい者の自立支援に向けた地域ケアや保健・医療・福祉の連携・協働に関する論文指導を展開する。

□■ 授業方法

個人ワーク、教員とのディスカッション、領域ゼミでのディスカッション、プレゼンテーション

□■ 成績評価の方法

審査委員会による修士論文審査および最終試験により総合的に評価する。

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

必要に応じて担当教員が指定する。

□■ 授業時間外学習

課題を指示するほか、各自で必要な自己学習を行うこと。

□■ 連絡先・オフィスアワー

□■ その他

□■ 学習到達目標

前年度に作成した研究計画書と承認された研究倫理審査結果に基づき、指導教員の指導のもとで、さらなる文献検討や専門領域内外でのディスカッションにより、研究遂行上の問題を解決しながら研究を進め、修士論文を完成させる。

[授業科目名] 地域保健看護学特論Ⅰ(4N20161151) Community Health NursingⅠ			
[担当教員] 波多野浩道			
[実施期] 前期	[単位数] 2	[時間数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

国内・国外の学術誌に掲載されている、地域保健看護学の最新の知見や研究方法を探究するとともに、基盤となる概念、コミュニティの健康課題を明確化する方法、問題解決に向けた活動方法について学び、地域保健看護学の課題に取り組む総合的能力を涵養する。

□■ 授業の内容

- 1 地域保健看護学に関する概念(1)：プライマリヘルスケア
- 2 地域保健看護学に関する概念(2)：ヘルスプロモーション
- 3 実践を導くための理論・モデル(1)
ヘルスプロモーションモデル、PRECEDE-PROCEEDモデル
- 4 実践を導くための理論・モデル(2)
Community as Partner model
- 5 コミュニティ・アセスメントおよび地域診断の方法論
- 6 情報収集・分析の方法(1)：疫学的方法
- 7 情報収集・分析の方法(2)：エスノグラフィー
- 8 文献検討(1)
コミュニティ・アセスメント、地域診断に関する文献
- 9 コミュニティの組織化に関する理論と方法論(1)
コミュニティ・オーガニゼーション・ビルディング
- 10 コミュニティの組織化に関する理論と方法論(2)
コミュニティ・エンパワーメント
- 11 コミュニティの組織化に関する理論と方法論(3)
Community-Based Participatory Research
- 12 文献検討(2)
地域づくりについての地域保健看護活動に関する文献
- 13 健康政策のプロセスと施策化に関わる方法論
- 14 健康政策とソーシャル・キャピタル
- 15 地域保健看護学の研究課題と研究方法に関する展望

□■ 授業方法

講義、文献検討、プレゼンテーションおよびディスカッション

□■ 成績評価の方法

プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

Elizabeth T. Anderson & Judith McFarlane "Community as Partner theory and practice in nursing 7th ed"
Wolters Kluwer 2015.
その他、適宜、紹介する。

□■ 授業時間外学習

課題レポート(2回)に取り組み、レジュメの作成等、プレゼンテーションの準備をする。
毎回予習し、課題が与えられるので、ディスカッションの準備をする。

□■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：h-hatano {@} ns-u.aino.ac.jp ({@} は@に置き換える)
オフィスアワー：研究室にて、講義日の17：30～18：00

□■ その他

[授業科目名] 地域保健看護学特論Ⅱ(4N20171151) Community Health Nursing II			
[担当教員] 波多野浩道			
[実 施 期] 前期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

グループ支援の理論と方法、ケアマネジメントに関する諸理論・モデルを理解し、地域住民への個別指導・集団指導を行う際の知識と技術を習得することを目的とする。地域保健看護実践のリーダーシップや管理に関する概念・理論および方法論を理解し、効果的・効率的な活動方法、ヘルスケアシステムを探究する。

□■ 授業の内容

- 1 コミュニティケアと地域包括ケアシステム
- 2 グループ支援の理論と方法
サポートグループとセルフヘルプ・グループ
- 3 ケースマネジメント理論とそのプロセス
- 4 ケースマネジメント方法論(1)
アドボカシー、コンフリクト・マネジメント、協働
- 5 ケースマネジメント方法論(2)
ケースマネジメント・プラン、ケアマップ、
ライフケア・プラン
- 6 特定集団への支援方法：障害者（児）
- 7 健康課題に応じた支援方法：精神保健
- 8 ライフステージに応じた支援方法：児童・青年期（ひきこもり）
- 9 集団健康教育の理論と実践
- 10 地域看護管理とリーダーシップ
- 11 プログラムマネジメントと質管理
- 12 リスクマネジメントとリスクコミュニケーション
- 13 人材育成と人材管理
- 14 地域における看護職の役割と機能および倫理的課題
- 15 ヘルスケアシステム構築の方法論

□■ 学習到達目標

対人支援技術（グループ支援、ケースマネジメント）を、ライフステージ、健康課題、集団の別に応じて援用することができる。地域看護管理実践の特質を理解し、課題を分析できる。ケアシステムの開発や改善について議論できる。

□■ 授業方法

講義、プレゼンテーションおよびディスカッション

□■ 成績評価の方法

プレゼンテーション（50％）、レポート（50％）

□■ 教科書

指定しない。

□■ 参考書

適宜、紹介する。

□■ 授業時間外学習

課題レポート（2回）に取り組み、レジュメの作成等、プレゼンテーションの準備をする。
毎回予習し、課題が与えられるので、ディスカッションの準備をする。

□■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：h-hatano {@} ns-u.aino.ac.jp （{@} は@に置き換える）
オフィスアワー：研究室にて、講義日の17:30～18:00

□■ その他

[授業科目名] 地域保健看護学演習 I (4N20182151) Seminar in Community Health Nursing I			
[担当教員] 波多野浩道			
[実 施 期] 後期	[単 位 数] 2	[時 間 数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

地域保健看護学の主要な理論やモデルを援用し、研究計画作成および研究遂行の能力をつけることを目的に、量的研究、質的研究両方のデータ収集、解析の能力、文献検討の能力を養う。

□ ■ 授業の内容

- 1 演習の進め方：データアーカイブ、クリティークのガイドライン
- 2 調査法演習 (1) 仮説の立て方
- 3 調査法演習 (2) 調査票の作り方
- 4 調査法演習 (3) 尺度開発
- 5 データ解析演習 (1) 記述統計と推測統計
- 6 データ解析演習 (2) クロス表の解析—エラボレーション
- 7 データ解析演習 (3) データアーカイブによる解析
- 8 フィールドワーク技法演習 (1) リサーチ・プロブレムの絞り方
- 9 フィールドワーク技法演習 (2) インタビュー・ガイドの作成
- 10 フィールドワーク技法演習 (3) データ分析
- 11 文献検討 (1)
量的研究のクリティーク (1) サービス利用研究
- 12 文献検討 (2)
量的研究のクリティーク (2) ソーシャルキャピタル研究
- 13 文献検討 (3)
質的研究のクリティーク (1) 地域づくり研究
- 14 文献検討 (4)
質的研究のクリティーク (2) ヘルスプロモーション研究
- 15 データアーカイブによる解析の成果発表

□ ■ 学習到達目標

仮説を探索し、立てることができる。調査法やフィールドワーク技法を用い、データを収集することができる。統計学の手法を用い、データ解析ができる。地域保健看護学に関する量的研究、質的研究両方の文献クリティークができる。

□ ■ 授業方法

演習（調査法、データ解析、フィールドワーク技法）、文献検討、ディスカッション、プレゼンテーション

□ ■ 成績評価の方法

演習の課題達成度（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）

□ ■ 教科書

川端亮編著「データアーカイブSRDQで学ぶ社会調査の計量分析」 京都、ミネルヴァ書房。

□ ■ 参考書

- ① 岩井紀子, 保田時男「調査データ分析の基礎」東京, 有斐閣.
- ② Robert F. DeVellis : Scale Development- Theory and Applications(third ed.). London, SAGE Publications.
- ③ 木下康仁 訳「文化と看護のアクションリサーチ」東京, 医学書院.

□ ■ 授業時間外学習

6 演習課題、2 文献検討のレジュメ作成、発表、ディスカッションの準備が課される。データアーカイブを用いたオリジナルな解析レポートが課される。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：h-hatano { } ns-u.aino.ac.jp （ { } は@に置き換える）
オフィスアワー：研究室にて、講義日の17:30～18:00

□ ■ その他

【授業科目名】 地域保健看護学演習Ⅱ (4N20192151) Seminar in Community Health Nursing II			
【担当教員】 波多野浩道			
【実施期】 後期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

地域保健看護学領域におけるコミュニティ（特定集団・地域）の健康問題の特性とそのアセスメント、支援および評価方法を探索・習得する目的で、フィールドにて、観察、インタビュー等により情報を収集し、統計資料等の既存資料と合わせ、コミュニティ・アセスメントおよび地域診断を行い、それに基づき、特定課題に関する効果的な支援方法を考察する。

□■ 授業の内容

- 1 演習計画・発表
- 2 フィールドワーク (1)
データ収集 (1) (wind-shield survey)
- 3 フィールドワーク (2)
データ収集 (2) (インタビュー/参加観察/既存資料等)
- 4 フィールドワーク (3) : データ収集 (3)、データ分析 (1)
- 5 フィールドワーク (4) : データ収集 (4)、データ分析 (2)
- 6 フィールドワーク (5) : データ収集 (5)、データ分析 (3)
- 7 フィールドワーク (6) : データ分析 (4)
- 8 コミュニティ・アセスメントおよび地域診断結果発表
- 9 フィールドワーク (7)
ケースマネジメントに関する情報収集
- 10 フィールドワーク (8)
プログラムマネジメント・質管理に関する情報収集
- 11 特定課題の支援方法に関する文献・良好実践事例の検討 (1)
支援方法の立案 (1)
- 12 特定課題の支援方法に関する文献・良好実践事例の検討 (2)
支援方法の立案 (2)
- 13 コミュニティ・アセスメントと地域診断に基づく支援方法の立案
障害児
- 14 コミュニティ・アセスメントと地域診断に基づく支援方法の立案
ひきこもり
- 15 支援方法の立案発表

□■ 授業方法

フィールドワーク、プレゼンテーションおよびディスカッション
演習場所：保健福祉センター、保健医療センター、その他

□■ 成績評価の方法

演習の課題達成度 (40%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (30%)

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

Elizabeth T. Anderson & Judith McFarlane "Community as Partner theory and practice in nursing 7th ed"
Wolters Kluwer 2015.
その他、適宜、紹介する。

□■ 授業時間外学習

フィールドワーク演習課題のレポート2つ、支援方法の課題ミニレポート4つが課される。

□■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：h-hatano {@} ns-u.aino.ac.jp ({@} は@に置き換える)
オフィスアワー：研究室にて、講義日の17:30～18:00

□■ その他

[授業科目名] 地域保健看護学特別研究(4N20202151) Master's Thesis/Research Project			
[担当教員] 波多野浩道			
[実 施 期] 通年	[単 位 数] 8	[時間数] 120	[必修選択別] 必修
[対象学生] 看護学専攻(2年次)			

□ ■ 科目の概要

前年度に作成した研究計画書と承認された研究倫理審査結果に基づき、指導教員の指導のもとで、さらなる文献検討や専門領域内外でのディスカッションにより、研究遂行上の問題を解決しながら研究を進め、修士論文を完成させる。

□ ■ 授業の内容

1～56 研究計画書に沿った研究の実施
 ・データ収集
 ・分析
 ・論文作成
 57～58 公開発表会
 59～60 論文の修正、完成

□ ■ 学習到達目標

地域保健看護学の研究成果を、学会誌に投稿可能な論文として作成することができる。

※特別研究においては、1年次より研究テーマの探索など準備が行われるため、65ページに研究指導・修士論文作成の全体のスケジュールを添付する。

(波多野浩道)
 地域看護学、公衆衛生看護学の諸理論を基盤に、現場で起こっている事象を概念化、モデル化し、現場に還元できる研究を行うように、主として、島嶼保健、地域住民のヘルスサービス利用、保健行動モデル、ヘルスケアの質評価、地域特性に応じた健康なまちづくり推進方略、地域包括ケアシステムの構築などをテーマとする研究の指導を行う。

□ ■ 授業方法

個人ワーク、教員とのディスカッション、領域ゼミでのディスカッション、プレゼンテーション

□ ■ 成績評価の方法

審査委員会による修士論文審査により評価する。

□ ■ 教科書

特に指定しない。

□ ■ 参考書

必要に応じて担当教員が指定する。

□ ■ 授業時間外学習

教員とのディスカッション、領域ゼミでのディスカッション、プレゼンテーションの準備を初め、データ収集、解析、論文作成には、授業外の時間を必要とする。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

メールアドレス：h-hatano {@} ns-u.aino.ac.jp （{@} は@に置き換える）
 オフィスアワー：講義日の17:30～18:00

□ ■ その他

[授業科目名] 看護管理学特論Ⅰ(4N20211151) Nursing AdministrationⅠ			
[担当教員] 菅田勝也			
[実施期] 前期	[単位数] 2	[時間数] 30	[必修選択別] 選択
[対象学生] 看護学専攻(1年次)			

□■ 科目の概要

医療をめぐる社会経済環境の変化と看護政策・行政の動向について知識を習得し、そのような変化に対して看護サービス提供システムを改善し変革する組織的対応について議論する。また、看護サービスの効果的・効率的な提供、質の評価・改善に適用可能な管理理論・方法論、および組織論、組織行動論に基づいた人的資源管理について学び、看護管理上の課題に対処する方策を探究する。

□■ 授業の内容

1. 看護管理者の役割と倫理
2. 医療看護の政策・行政の動向
3. 医療経済と看護－1：国民医療費の動向
4. 医療経済と看護－2：診療報酬における看護の評価
5. 看護組織管理の実例－1：看護部門の管理
6. 看護組織管理の実例－2：看護単位の管理
7. 医療変革に対する看護組織の対応
8. サービス・マネジメントの概念と方法
9. アウトカム・マネジメントの概念と方法
10. クオリティ・マネジメントの概念と方法
11. リスク・マネジメントの概念と方法
12. 人的資源管理：能力開発とキャリア発達
13. リーダーシップと組織の活性化
14. コンサルテーションの概念と実践
15. 情報技術(IT)と看護情報管理

□■ 学習到達目標

1. わが国の医療の動向と医療経済について説明できる。
2. 看護管理者の役割と看護組織の管理について説明できる。
3. 看護管理の方法について説明できる。

□■ 授業方法

講義、グループワーク、プレゼンテーション

□■ 成績評価の方法

レポート (50%) グループワーク (20%) プレゼンテーション (30%)

□■ 教科書

Sullivan, E.: Effective leadership and management in nursing (8th ed.). Prentice Hall.

□■ 参考書

Chang, C.F., Price, S.A. & Pfoutz, S.K.: Economics and Nursing: Critical Professional Issues.

Philadelphia, PA, F.A.Davis Company.

Morris, S.: Health Economics for Nurses: An Introductory Guide. London, Prentice Hall.

永井良三監修. 数間恵子, 菅田勝也, 小出大介編集: 看護と情報科学. 東京, 杏林図書.

□■ 授業時間外学習

毎回授業の復習をすること。

レポート課題に取り組むこと。

プレゼンテーションのための資料を作成すること。

□■ 連絡先・オフィスアワー

k-kanda {@} aino.ac.jp

火曜日13時～17時

□■ その他

【授業科目名】 看護管理学特論Ⅱ (4N20221151) Nursing Administration II			
【担当教員】 上條優子 堀井理司			
【実施期】 前期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

保健・医療・福祉の分野において質の高い看護サービスを提供するための医療安全の基本的知識を習得し、看護管理学の視点から主体的に関与する方法を探究する。

□ ■ 授業の内容

1. 医療における安全管理-その動向と傾向 (上條)
2. 医療事故と医療過誤 (上條)
3. 医療安全のための戦略：教育とガイドライン (上條)
4. 医療安全のための戦略：工学的解決とコミュニケーション (上條)
5. 他業界の安全管理 (上條)
6. 医療安全教育・インシデント分析 (上條)
7. 医療安全に関する文献クリティーク (上條)
8. 医療安全に関する文献クリティーク (上條)
9. 感染対策組織の配置運営 (堀井)
10. アウトブレイクの管理 (堀井)
11. 隔離予防策 (堀井)
12. 病院環境の感染対策 (堀井)
13. 職員の安全衛生対策 (堀井)
14. 看護管理学の視点から考えた安全管理（グループディスカッション） (上條)
15. 看護管理学の視点から考えた安全管理（プレゼンテーション） (上條)

□ ■ 学習到達目標

1. 医療における安全管理について説明できる。
2. 医療事故・医療過誤の事例から安全管理のあり方を説明できる。
3. 保健・医療・福祉の分野における感染対策について説明できる。

□ ■ 授業方法

講義、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

□ ■ 成績評価の方法

レポート（50％） 小テスト（20％） プレゼンテーション（30％）

□ ■ 教科書

岩田健太郎 監修：感染予防、そしてコントロールのマニュアル
メディカルサイエンス・インターナショナル

□ ■ 参考書

相馬孝博 監修「患者安全のシステムを創る - 米国JCAHO推奨のノウハウ」医学書院
医療ジャーナリスト（訳）「人は誰でも間違える - より安全な医療システムを目指して」医療評論社

□ ■ 授業時間外学習

毎回授業の復習をすること。
15回目のプレゼンテーション発表のための資料を作成すること。
適宜レポートを課すのでレポート課題に取り組むこと。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

別途、指示する。

□ ■ その他

【授業科目名】 看護管理学演習 I (4N20232151) Seminar in Nursing Administration I			
【担当教員】 菅田勝也			
【実施期】 後期	【単位数】 2	【時間数】 30	【必修選択別】 選択
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

□ ■ 科目の概要

看護組織の目標を達成するマネジメントについて現状を理解し、事例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、分析能力と問題解決能力を養う。また、施設における看護管理の実際を見学し、管理に必要なスキルを身に付ける。

□ ■ 授業の内容

- 1～2. サービス・マネジメントの実際（事例検討）
- 3～4. クオリティ・マネジメントの実際（事例検討）
- 5～6. 人的資源管理の実際（事例検討）
- 7～8. 目標管理の実際（事例検討）
- 9～10. 看護部門・看護単位の管理（病院にて研修）
- 11～12. 看護情報管理（病院にて研修）
- 13～14. 看護管理に関する文献精読、討議、発表
15. まとめ、自己の研究課題の明確化

□ ■ 学習到達目標

1. 看護管理学の諸理論や知識、方法論を実践と結びつけることができる。
2. 看護管理の現状について情報収集、分析、評価を行うことができる。
3. 看護管理上の問題解決に向けた研究方法を探究できる。

□ ■ 授業方法

文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション、シャドウナース

□ ■ 成績評価の方法

演習状況（70％）、レポート（30％）

□ ■ 教科書

特に指定しない。

□ ■ 参考書

必要に応じて担当教員が指定する。

□ ■ 授業時間外学習

レポート課題に取り組むこと。
プレゼンテーションのための資料を作成すること。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

k-kanda {@} aino. ac. jp （{@}は@に置き換えてください）
火曜日13時～17時

□ ■ その他

【授業科目名】 看護管理学演習Ⅱ(4N20242151) Seminar in Nursing Administration II			
【担当教員】 中田裕二 菅田勝也 上條優子			
【実施期】	後期	【単位数】	2
		【時間数】	30
【必修選択別】 選択			
【対象学生】 看護学専攻(1年次)			

☐ ■ 科目の概要

保健・医療・福祉の分野において質の高い看護サービスを提供するための医療安全について看護管理学の視点から考え、医療安全管理に必要なスキルを身に付ける。

☐ ■ 授業の内容

1. サーベイランス方法 (中田)
2. 細菌のサンプリング (中田)
3. 細菌の培養検出 (中田)
4. イムノクロマト法による菌体検出 (中田)
5. 核酸を用いた性状解析 (1) (中田)
6. 核酸を用いた性状解析 (2) (中田)
7. 核酸を用いた性状解析 (3) (中田)
8. 分子疫学解析 (中田)
9. 医療事故分析方法 (上條)
10. インシデント分析 (RCA分析) (上條)
11. インシデント分析 (RCA後の対策) (上條)
12. インシデント分析 (FMEA分析) (上條)
13. インシデント分析 (FMEA後の対策) (上條)
14. 文献・資料等の検討 (菅田・上條)
15. 発表・討論 (菅田・上條)

☐ ■ 学習到達目標

1. 感染管理におけるサーベイランスが実施できる。
2. 医療安全におけるインシデント分析ができる。

☐ ■ 授業方法

配布プリントを用いた講義および微生物を用いた技術指導演習を行う。
個人・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

☐ ■ 成績評価の方法

演習状況 (70%)、レポート (30%)

☐ ■ 教科書

なし

☐ ■ 参考書

なし

適宜文献を使用する。

☐ ■ 授業時間外学習

文献・資料等の検討を適宜行うこと。
発表の準備をしておくこと。
毎回授業の復習をすること。

☐ ■ 連絡先・オフィスアワー

別途、指示する。

☐ ■ その他

〔授業科目名〕 看護管理学特別研究(4N20252151) Master's Thesis/Research Project			
〔担当教員〕 菅田勝也 中田裕二 西上あゆみ			
〔実施期〕 通年	〔単位数〕 8	〔時間数〕 120	〔必修選択別〕 必修
〔対象学生〕 看護学専攻(2年次)			

□■ 科目の概要

研究指導教員の指導のもとで、修士論文を作成する。

□■ 授業の内容

1～56 研究計画書に沿った研究の実施

- ・データ収集
- ・分析
- ・論文作成

57～58 公開発表会

59～60 論文の修正、完成

※特別研究においては、1年次より研究テーマの探索など準備が行われるため、65ページに研究指導・修士論文作成の全体のスケジュールを添付する。

(菅田 勝也)

医療経済学やマネジメントの理論に基づき、看護サービスの経済分析・質評価・改善、効果的・効率的な看護提供システム、看護師のキャリア発達、人材資源管理、医師－看護師協働、安全管理など、看護管理に関わるテーマの研究を、指導教員およびゼミでのディスカッションを通して研究上の問題を解決しながら遂行させ、修士論文を作成することを指導する。

(中田 裕二)

医療施設では高齢患者の増加、薬剤耐性菌の増加等により感染症対策の重要性がますます増大している。そこで、医療関連感染を防ぐためのサーベイランス方法、解析および対策という感染管理の立場から研究指導を行う。

(西上あゆみ)

人間の安全保障の理念のもとに、災害が人々にもたらす脅威に立ち向かうことができるように、その備えの時期から復興の時期までを対象として、災害看護の実践や教育に関する研究について論文指導を行う。

□■ 授業方法

個人ワーク、教員とのディスカッション、領域ゼミでのディスカッション、プレゼンテーション

□■ 成績評価の方法

審査委員会による修士論文審査および最終試験により総合的に評価する。

□■ 教科書

特に指定しない。

□■ 参考書

必要に応じて担当教員が指定する。

□■ 授業時間外学習

文献検索・検討、研究計画検討、データ収集・分析、論文執筆を行う。

□■ 連絡先・オフィスアワー

[菅田] k-kanda {@} aino.ac.jp 火曜日13時～17時

□■ その他